

「不安な個人、立ちすくむ国家」

東京中小企業投資育成は11月21日、東京・渋谷の同社本社ビルで、経済産業省の次官・若手プロジェクトのメンバーを招き「若手経営者・後継者会」を開催した。同プロジェクトが今年5月に公表し話題となった提言「不安な個人、立ちすくむ国家」モデル無き時代をどう前向きに生き抜くか」の内容について、プロジェクトリーダーの商務・サービスグループ参事官室の須賀千鶴氏が講演した。

「ほしい」と語った。

講演で須賀氏は、「国家は何のためにあるのか、経済成長だけを目標にしているのだからか」という問題意識のもと、国内外の社会構造の変化を把握し、中長期的な政策の軸となる考え方を検討。それを世の中に問いかけることを目指したと述べ、「ホームベータで資料を公開した翌日に炎上し、大きな反響があった」とし、資料は150万ダウンロードされていると語った。

東京投資育成「若手経営者の会」 経産省若手官僚が講演



望月社長と対談する経産省の須賀氏

「人生100年時代にもちな価値観が絡み合い変革が進まない」と指摘。これが多様な生き方を望む個人の選択肢を歪めていることなどを説明した。提言公開後、多くの賛否両論があったことを踏まえ、「今後もさまざまな団体などとの意見交換を行い、議論を深めていく」とプロジェクトの方針を話した。

望月社長は「これまでの時代にも不安はあったが、それは今と違い分かりやすかったと思う。社会構造が変化し複雑化する中で、新しい秩序が必要になるのではないか。その答えを持っているのか」と問いかけた。須賀氏は「トライしたが、問題が大きく答えが出せない。今回、」と答えた。須賀氏は「東京中小企業投資育成が主催する若手経営者の会では、投資先中小企業を対象に同じ悩みを抱える後継者同士が本音で議論をし合える場を提供しネットワーク構築を支援するため1980年に発足。この日は48社が参加した。」と答えた。